

平成30年  
4月  
No.127

# 地域連携センターだより



Izumi Municipal Hospital

和泉市立総合医療センター

発行/和泉市立総合医療センター 地域連携センター (毎月1回発行)

電話/直通 0725-41-3150 代表 0725-41-1331

FAX/直通 0725-41-2513

## 「和泉市立総合医療センター」の スタートにあたって

平成30年4月1日をもって和泉市立病院は、名称を「和泉市立総合医療センター」と改めて生まれ変わることになりました。新病院では、新しい診療科も多く増設され、名称に相応しい総合病院としての機能を発揮できていると思っています。ただ、当センターが目指す“総合医療”というのは、診療科、職種の壁をなくし、全ての医療人が協働して個々の患者様を総合的に診療するという意味です。内科では、循環器、呼吸器、消化器、肝臓、腫瘍に加えて、脳神経、血液、内分泌・糖尿病、リウマチ・膠原病が加わり、抜け目のない対応ができるようになります。外科系では、消化器のほかに、呼吸器、乳腺の専門医が加わり、その他にも脳神経外科、心臓血管外科、耳鼻いんこう科、形成外科の専門医師が赴任します。これまでの最大の懸案となっていた救急医療に関しては、内科、外科、整形外科などすべての診療科が協力して救急医療を支えることにしています。特に脳血管系疾患、心筋梗塞などの心臓血管領域、消化器、呼吸器関連の救急には全面的に対応いたします。

また、輪番制の小児救急や「あんしんカード」を用いたがん患者の救急には、これまでと同様に対応して参ります。がん医療では、強度変調照射（IMRT）や定位放射線治療が可能な最先端の放射線治療装置トモセラピーの導入、充実した外来化学療法室、広い病室、くつろぎの場、屋内庭園を備えた緩和ケア病棟など、高度で患者さんに優しいがん医療が実践出来ると思っています。また、神経難病、腎移植、人工関節、脊椎疾患、難聴・めまいなどでは南大阪・泉州地区の中核施設となると期待しています。これら専門性の高い医療、救急医療を成功させるためには、地域の医療機関との密接な連携が重要であります。地域医療連携室（地域連携センター）を充実し、ハードルを低くして、皆様のご要望にお応えできるよう態勢を整えてまいります。 “和泉市立総合医療センター”を地域医療の中心として育てていただきますようご支援をお願い致します。



総長 福岡正博

## 新病院のご紹介

平成30年4月1日、和泉市立病院は「和泉市立総合医療センター」と改称し、旧市民グラウンド跡地に移転しました。緑豊かな榎尾川公園に隣接して公園と一体化した安らぎのある療養環境を得ることが出来ました。巨大地震にも対応可能な免震構造を採用しており、大災害時には医療活動拠点となるよう災害訓練を行っています。新たな住所は「和泉市和気町4丁目5番1号」です。電話番号、FAX番号は変わりません。

診療科は現在の19科から32科に増えました。外来受付時間は「午前11時30分まで」と30分延長になりました。土曜日も「総合内科」、「総合外科」として一般診療を行います。一部の専門診療科は土曜日も予約診療を行い、消化器内科は内視鏡検査も行います。

最新のがん放射線治療装置「トモセラピー」を導入しました。正常な細胞へのダメージを抑えながら腫瘍へ効果的な照射が実現できるようになります。心臓血管撮影装置は2方向からの撮影が可能なバイプレーン装置、3.0テスラーMRIおよびSPECT-CTを新規に導入、320列CTは移設いたしました。

病床数は307床で一般病床、緩和ケア病床、小児病床、HCU(十分な広さがありICU

に変更も可能)を備えています。手術室は6室ですが、拡張スペースがあるため、手術件数の増加に伴ってさらに増やすことが可能です。

全体の個室率は約30%となり全てトイレ付きです。4人床総室には仕切り家具が配置され、総室であってもプライベート空間が得やすくなっています。

5階の緩和ケア病棟、腫瘍病棟には屋上庭園や中庭があり、緩和ケア病棟の個室には個別のテラスが付いています。またトイレ・シャワーを備えた個室や和室もあります。ゆったりした空間の健診室、そして永年の念願であった透析室が実現しました。

新病院では病病連携、病診連携を通じて、これまで以上に紹介・逆紹介のサイクルを回しながら、職員一同、真心をこめて安心、安全な医療を提供して参ります。

病院長 村上城子



## 新たな環境で変わらぬ

# 「優しさと思いやりのある看護」を！

平成30年4月、和泉市立総合医療センターがつつがなく開院できましたのも、ひとえに皆様のご理解、ご支援、ご厚情のお陰と心よりお礼申し上げます。

旧病院から南東に約500m新築移転しました当センターでは、これまでにない素晴らしい療養環境が実現します。

槇尾川沿いの自然豊かな環境に建つ当センターは“患者さまにやさしい病院づくり”を目指しており、公園やテニスコート、遊歩道が整備され患者様のみならず地域の方々にとっても憩いの場となるでしょう。

吹き抜けのエントランスや外来待合の壁面には地場産材である「いずもく」が使用され、あたたかな木の風合いが患者様を優しく迎えます。

また、各病室の窓からは和泉市一带を見渡せることができ四季折々の景色をご覧いただけます。5階の緩和ケア病棟には、中庭が見晴らせる個別のベランダスペースがあり、ベッドに臥床したままでもベランダに出て、外の空気を感ずることができるように工夫されています。環境面のみならず病院機能も各段に充実します。診療科が32科へ増え、さらに新診療科

の内10科に常勤医師が赴任します。それに伴い常勤医師数も7

0～80名に増え、各専門医が協力体制を築くことで様々な疾患に対処することが可能です。

そこへ看護師やコメディカルが加わり「チーム医療」を展開することで、QOLの維持・向上そして、患者様の意思を尊重した治療や療養の実現を目指します。

新病院へ移転後もしばらくの間は診療体制や組織体制が定まらず、地域の先生方にくるぶんど不便・ご迷惑をお掛けするかと存じますが、そのような中でも私たち看護職員は常々、患者様に寄り添う看護の実践に取り組むことを誓います。

この4月に、私たちの仲間として約60名の看護職員を迎え入れます。年齢やキャリア、育ってきた環境が違えど、看護部に所属するスタッフ全員が「優しさと思いやりのある看護の実践」という看護部理念の基、「地域の方々から信頼される病院へ」という同じ目標に向かって歩みを進められるよう、絶えず挑戦し続ける組織でありたいと願っています。

看護部長 川口 いずみ



### 病院の理念



1. 患者さんの視点に立った安心・安全な医療の実践に務めます。
2. 患者さんに最適な医療を提供できるように努めます。
3. 新しいことにもチャレンジし、医療の質の向上に努めます。
4. 思いやりのある医療人の育成に努めます。

# 入退職医師のご案内

## 平成30年3月末付け 退職常勤医師

整形外科	江川卓弥
小児科	中川淳生
呼吸器内科	岩本裕敬
婦人科	左清信哲
麻酔科	小山正孝
	南内典真
	奈穂子

小児科

内分泌・糖尿病内科

放射線科

呼吸器内科

ひろ大郎 裕いちき 紀ひろ博りき  
か隆<sup>た</sup>太 耕やす陽ゆう雄か隆  
い井崎の野な中い井だ田にし西  
ふし藤や矢お大た田か阪うえ上うえ

## 平成30年4月付け 新規採用常勤医

整形外科	え前か河まつ松いわわ岩か川やま山にし西は速にし西なか中う浦わ和は波く久た田て手と富さ佐い井ひ樋お岡やま山
婦人科	だ田い合だ田にし西き崎がた縣で出み水か岡むら村せ瀬だ田の野た田き崎つか塚わ沢と藤うち内野だ田うち内
消化器内科	しん真ひ秀ま真美 <sup>き</sup> まさ正う洋ゆ友 <sup>み</sup> 美み康
耳鼻咽喉科	ご吾き幸 <sup>き</sup> 子な奈の憲すけ介 <sup>き</sup> 子すけ介 <sup>か</sup> 伯 <sup>あ</sup> く作明け介ろ大お尚ゆき之し志じ二あき明み美いち一の典 <sup>い</sup> こ子
泌尿器科	う雄ふみ文う裕か高
神経内科	か貴けん健け健つ克も友 <sup>し</sup> よ尚 <sup>あ</sup> 晃あ
血液内科	え江ほ保
神経外科	
乳腺外科	
呼吸器外科	
形成外科	
リウマチ内科	
皮膚科	

## 平成30年3月末付け 退職非常勤医師

精神科	児玉祐也
耳鼻咽喉科	西出友美子
皮膚科	速水康介 <sup>(4月から常勤医師へ)</sup>
放射線科	福永淑恵
麻酔科	立川本晋
	濱林

## 平成30年4月付け 新規採用非常勤医

腎・透析内科	お夫まさ正ひか光け介 <sup>ろ</sup> 子こ子み美し史けん健き記る弥や也な茄
神経内科	ひさ久かず和 浩 <sup>う</sup> 翔 <sup>し</sup> 朋な奈 <sup>あ</sup> 淳
精神科	なかやし林と本ら浦した下た田せ谷い井やまざ澤い石と藤ぐ口
循環器内科	た田こ小か阪み三ま山に新お小と土が影ね米お大い齋ほり堀
放射線科	
耳鼻咽喉科	

休診の  
お知らせ

耳鼻咽喉科	4月6日(金)	阪本浩一 医師	休診
救急外来	4月29日(日)	山辻仁樹 医師	休診

